

なかごう4月号

中郷地区公民館だより 令和8年4月発行
発行 中郷地区公民館 TEL39-0713



2月にあった立志式で決意の色紙を掲げる中郷中の生徒



安藤高幸 書

スカットボールで会員交流

中郷地区高齢者クラブ連絡協議会(鬼束利男会長253人)は、会員の健康増進と相互の交流を目的にスカットボール大会を3月2日(月)に、中郷地区体育館で開催しました。

都城市高齢者クラブのスポーツ大会が本年度から、これまでのミニボウリングに代わりスカットボールを採用したため、中郷地区内の会員にルールを覚えてもらい新年度からの大会に備えようと計画されたもので、中郷地区内の10クラブから55人が参加し、クラブ対抗で順位を競いました。

初めて体験する人や日頃から慣れ親しんでいる人などさまざまでしたが、初めての人も周りから優しく教えてもらい、すぐに要領を得て競技を楽しんでいました。

スカットボールは2チームで競技を行い、5人のチームが交互にスティックでボール(赤・白各5球)を打ち、1から5の数字が書かれた得点穴を狙います。入った得点穴の数字の合計が点数になり、点数の多いチームが勝ちとなります。

上位入賞は次のとおりでした。

1位 東豊満 2位 下安久 3位 弘川



▲高得点の穴を狙ってショット

中郷中学校で立志式

数え年で15歳になる節目に大人になる自覚と責任を持ち、将来の目標や決意を立てて表明する立志式が2月20日(金)に中郷中学校でありました。

2年生72人が、飛躍、開花、精進努力などの文字を筆で書いたため色紙を両手に持ち、体育館の舞台上で「挑戦し続ける」「成功するまで諦めない」「目標に向かって頑張る」と、保護者や地域の自治公民館長らが見守る中で誓いの言葉を述べました。



▲舞台上に立ち決意を発表する生徒

立志式に併せて記念講演も行われ、元中学校教諭の腰塚勇人さんが「命の授業 ドリー夢メーカーと今を生きる～」と題してお話されました。

スキーの事故で全身マヒとなった腰塚さんが懸命のリハビリにより社会復帰するまでのどん底から見た人生観などを話されました。「事故のあとと言われて一番苦しかったことは『頑張れ、頑張ってね』の言葉。リハビリの先生や看護師さんの『リハビリ一緒に頑張ろう』の言葉に、一人じゃないんだと気持ちが元気になる始めた」と。そして生徒たちには「学校が楽しくなかったらもったいない。みんなで楽しくする努力をして」と

話し、「命と気持ちを元気に学校生活を縁joyしてほしい。人として成長し、素敵なわくわくする大人になってください」とエールを送りました。



▲生徒に問いかけながら講演する腰塚勇人さん

壮青年連協原田会長が事例発表

都城市教育委員会と都城市社会教育関係団体等連絡協議会(通称:社教連)は、生涯学習、社会教育による学びで、地域づくり・まちづくりに取り組む機運を高めようと、ウェルネス交流プラザで社会教育振興大会を開きました。

3月7日(土)にあり、市内の自治公民館長や壮青年団体、高齢者クラブ、芸術文化協会など各団体の役員ら総勢270人が参加しました。

団体の活動についての事例発表があり、本年度、結成50年を迎えた沖水地区と中郷地区の壮年団体連絡協議会がそれぞれ発表を行いました。

中郷地区は原田吉浩会長が登壇し、中郷地区壮青年団体連絡協議会の活動を紹介。ミニバレーボール大会や春・秋のナイターソフトボール大会を毎年実施していることや、まちづくり協議会からの依頼を受けて行っている「世代間交流さつまいもの植え付け体験及び芋ほり収穫祭」が、多くの子どもたちや保護者などに参加してもらって盛

大な行事になっていることを発表しました。

また地域奉仕活動として、体育施設の清掃や萩原川堤防の草刈りなどにも尽力していることも紹介。課題として、会員の減少と高齢化を挙げ「新規会員の勧誘を花見や六月灯など、行事のあるときにしているが、なかなか困難。断られても何回も粘り強く勧誘していくしかない」と話し、今後の活動については「笑いのある楽しい壮青年会としていきたい」と締めくくりました。

大会では、社会教育功績者の表彰や講演会なども行われました。



▲実践発表を行った都城市壮年団体連協の皆さん



▲さつまいも収穫祭について話す原田吉浩壮青年会長